

長谷川三附記しませす

我々が半ヶ月に稼いだ銀金もつゞけ 勇夫の悪徳を厭
むるに過ぎず林日頃より 余社は無ん
居服せんとすまふ思ふも主ツに二重 二重取入金の
徴も必しも困難なかつた取寄と成つたあつたに 尚
最前にはどう形式の上は於て然りと存 然り大なる諍争
も為すの已むを得ざるに云ふたは 實に一昨日
より二十五日 間に懸念せし 四家業 雨工一
部と下廻り或る 新開者の卑怯なる東
功者が現はれ 切りの
後手扱したるが為でありませす 即ちこの 議事
の責任は彼 等ナニと云の東
功者が多然員ふべきものであるを
を明言しませす

我々の鉄東のくづる時 即ち我々の破る時
りませす 今迄は我々は益々鉄東を固くして お互の
福利の増進の爲に協力しなればならぬ 喜ぶと諸元
にハッキリと記憶していただきたいと思ひませす
諸君の健康を 誠敬に忠告せしむるを 祈りませす

二月二十三日

大谷屋 陶画 川口

長谷川三附記しませす